

大学発アーバンイノベーション神戸 研究成果報告書



大学発アーバンイノベーション神戸
University's Urban Innovation Kobe

研究課題名：神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会を契機とした
ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DE&I）の創出

研究期間：2023年4月～2025年3月

交付決定額(研究期間全体)：2,683千円

申請区分：一般助成型
課題番号：A23013

研究代表者：流通科学大学 人間社会学部
准教授 青山 将己

1. 研究成果の概要

研究目的

- 1) 国際パラスポーツ大会開催によって創出されるDE&Iの測定尺度を開発すること
- 2) 神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会におけるDE&Iの創出効果を検証すること

研究結果

- 1) Diversity5項目、Equity5項目、Inclusion5項目、計15項目の尺度開発に成功
- 2) 神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会における結果
 - ①最も平均値の高かったDE&I項目：
「神戸2024を通じて、人と違うことは普通であると感じた」（←Diversity）
 - ②観戦者群、選手・関係者群、ボランティア群の3群間比較
 - ・観戦者群は他の2群よりも一貫して高い値を示した。
 - ・EquityとInclusionでは、選手・関係者群がボランティア群よりも有意に高い値を示した。
 - ・ボランティアは、DE&Iの概念を観戦者や選手・関係者よりも低く感じていることが示唆された。

論文発表における成果

- 1) 青山将己・山口志郎・遠藤華英（2025）神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会における子どもの学びプログラム。イベント学研究, 8（1）, 81-88.
- 2) 山口志郎・青山将己・遠藤華英（2025）神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会におけるボランティアのセグメンテーション：参加動機を用いたクラスター分析による分類。イベント学研究, 8（1）, 39-50.

学会発表における成果

- 1) Ishimura, S., Aikawa, C., Shigeta, R., Hayashi, A., & Aoyama, M. (2024) . The values of parasport as perceived by para-athletes and stakeholders. The 10th Anniversary Asian Forum for the Next Generation of Sport Sciences.
- 2) Yamaguchi, S., Aoyama, M., & Endo, H. (2024). Conceptualization of Diversity, Equity, and Inclusion from the Volunteer Perspective in Para-Sport Events. EASM 2024 conference.
- 3) 石村颯太・林明梨・紺田尚嗣・後藤彩美・重田陸翔・相川千愛・間村建斗・中川実花・青山将己（2024）パラアスリートが認知するパラスポーツの魅力とは？. 日本生涯スポーツ学会第26回大会.
- 4) 青山将己・山口志郎・遠藤華英（2024）パラスポーツイベントにおけるDE&Iとは？：尺度開発及びステークホルダー間の比較検証. 日本生涯スポーツ学会第26回大会.
- 5) 山口志郎・青山将己（2024）神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会におけるボランティアのセグメンテーション：参加動機を用いたクラスター分析による分類. 第27回イベント学会研究大会.

2. 研究成果の学術的意義や社会的意義

◆ パラスポーツを「知る」、「考える」、「感じる」きっかけづくりとして、「観戦経験」は非常に重要

「ONEクラス応援制度」、「パラレゾ for School」に参画した子どもたちにとっても、貴重な経験に。
→ パラスポーツイベントのみならず、今後の国際スポーツイベントの誘致にポジティブな反応を示す可能性。

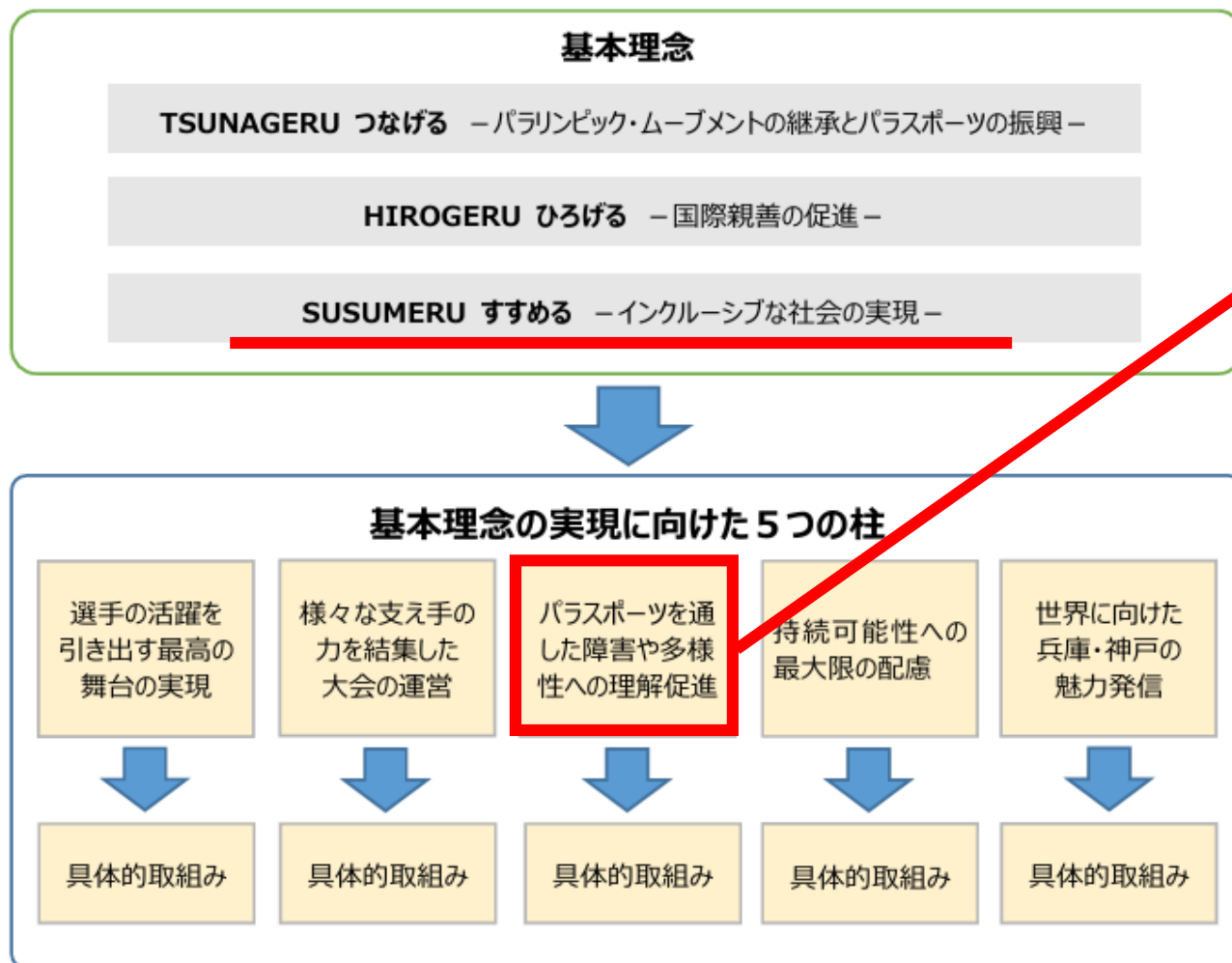
◆ 神戸2024は、市民が“共生社会”を考えるきっかけに

- ・宗教や文化に配慮した飲食の提供
- ・車いす席の整備、バリアフリートイレの配置
- ・ユニバーサルツーリズムの発信

障害だけでなく、年齢や性別、民族、宗教、国籍等の壁を越えて、“自立”する権利を創出することができた大会に。
→ 今後の同等大会誘致における説得材料に。

3. 研究開始当初の背景

神戸2024 基本理念 / 5つの柱

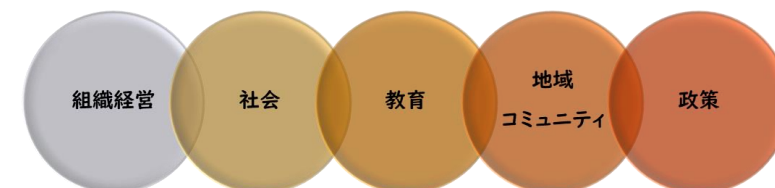


抽象的

具体的

近年、北米や欧州で注目される“DE&I”

- ◆ 2020年頃から北米や欧州で、組織経営における「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン (DE&I)」の推進がトレンドに。
→ 多様性の尊重と公平な機会の提供を通じて、誰もが平等に参加できる環境を作る、という概念
(第一生命経済研究所, n.d.)
- ◆ 最近では、組織経営だけでなく、社会や教育、地域コミュニティ、政策レベルでも重要な概念として扱われるように。



3. 研究開始当初の背景

◆ スポーツの分野においても、DE&Iはトレンドに...

☑ 国際パラリンピック委員会・ユネスコが、パラスポーツを通じて
障害者の社会的インクルージョンを促進する活動を展開 (IPC, n.d.)。

☑ 東京2020 D&Iアクション
☑ パリ2024 I&Eプログラム] → 共生社会の実現に向けた取り組みの実施。

Tokyo 2020
D&I Actions

しかしながら



- ◆ パラスポーツイベントが、障害者の社会的地位向上にどのように寄与しているかは十分に解明されていない。
- ◆ DE&Iは「社会効果」のひとつとして捉えられている。

本研究では、パラスポーツイベントによって創出されるDE&Iの社会効果を検証する。

4. 研究の目的

本研究の目的は、

- 1) 国際パラスポーツ大会開催によって創出されるDE&Iの測定尺度を開発すること
 - 2) 神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会におけるDE&Iの創出効果を検証すること
- の2点である。

本研究における
DE&Iの定義

Diversity (多様性)

- ・ パラスポーツイベントを通じて、すべての人が年齢や性別、民族、宗教、疾病、性自認、性的指向、教育、国籍、言語、障害の有無等の違いを尊重することへの知覚

Equity (公正性)

- ・ パラスポーツイベントを通じて、すべての人に情報や機会、リソースへのアクセスが中立に保障されていることへの知覚

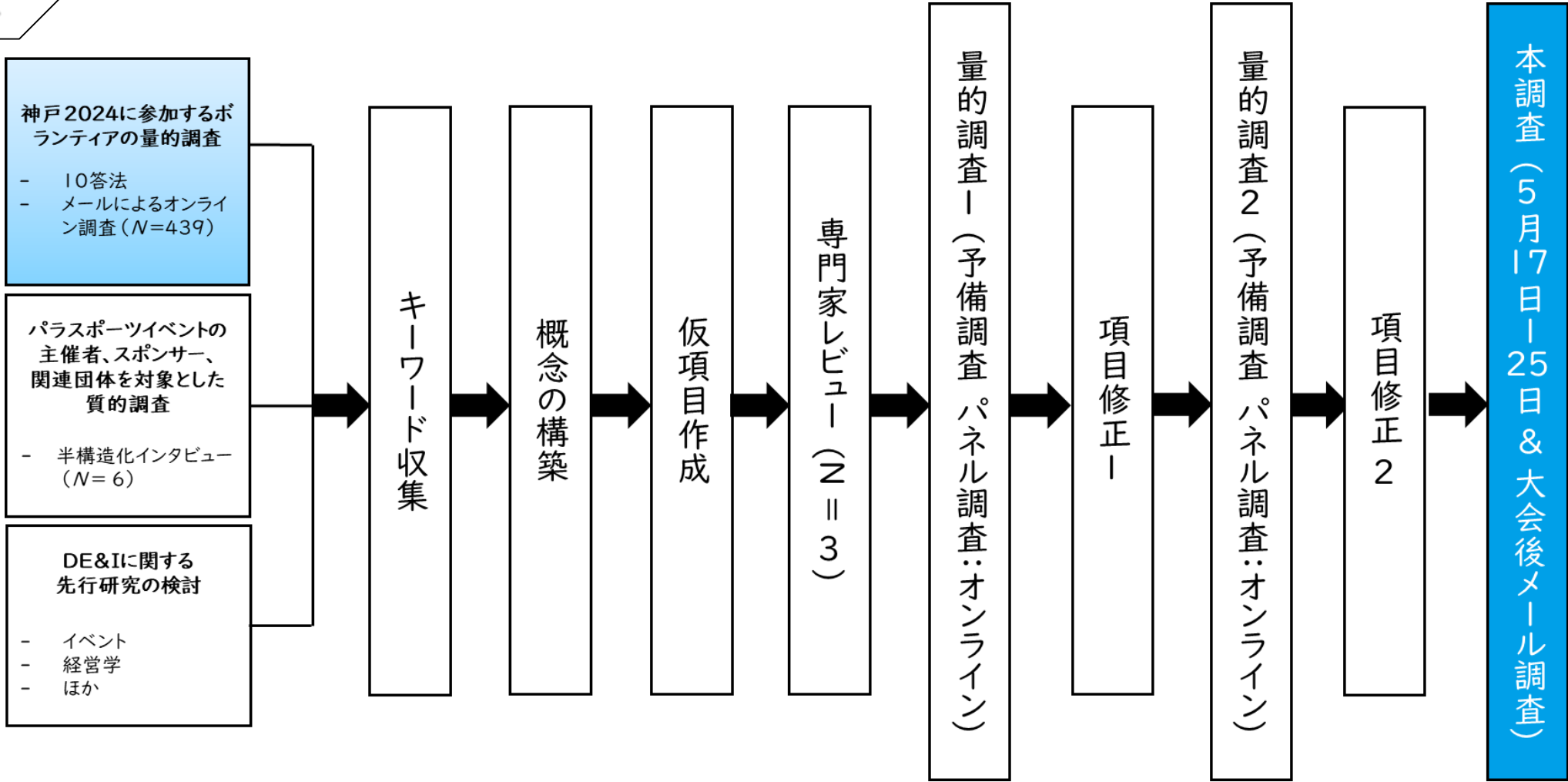
Inclusion (包摂性)

- ・ パラスポーツイベントを通じて、すべての人が歓迎され、尊重され、支援され、評価され、一人ひとりが個性を発揮し、活躍できる状態のこと

5. 研究の方法



調査 プロセス



5. 研究の方法



大学発アーバンイノベーション神戸
University's Urban Innovation Kobe

調査対象

観戦者

⑩大会期間中において、対面によるアンケート調査（QRコード）を実施

⑩n=1,764

選手・関係者

⑩大会期間中において、対面によるアンケート調査（QRコード）を実施（日本語と英語）

⑩大会後、メール調査を実施

⑩n=555（日本語：n=407, 英語：n=148）

ボランティア

⑩大会後、メール調査を実施

⑩n=566



6. 研究成果



個人的属性

観戦者

男性 = 42.3%
女性 = 56.0%

平均年齢 = 46.2歳

男性 = 56.2%
女性 = 42.5%

平均年齢 = 40.5歳

選手・関係者

ボランティア

男性 = 38.5%
女性 = 59.7%

平均年齢 = 55.9歳



DE&I
全体の平均値

【得点】

1点：全くあてはまらない
～ 7点：非常にあてはまる

最も平均値が
高かった項目

神戸2024を通じて、
人と違うことは
普通であると感じた

	M
Diversity（多様性）	6.25
神戸2024を通じて、個性は多種多様であると感じた	6.21
神戸2024を通じて、人には色々な価値観があると感じた	6.19
神戸2024を通じて、違いは人それぞれであると感じた	6.29
神戸2024を通じて、人と違うことは普通であると感じた	6.32
神戸2024を通じて、違いは個性であると感じた	6.25
Equity（公正性）	6.14
神戸2024を通じて、あらゆるサービスは、すべての人が利用するためにあると感じた	6.16
神戸2024を通じて、個性を発揮することは、人に与えられた権利であると感じた	6.15
神戸2024を通じて、自立することは、人に与えられた権利であると感じた	6.23
神戸2024を通じて、中立な参加機会は、人に与えられた権利であると感じた	6.11
神戸2024を通じて、あらゆる情報は、すべての人が利用するためにあると感じた	6.06
Inclusion（包摂性）	5.99
神戸2024を通じて、あらゆる人が思っていると感じた	6.00
神戸2024を通じて、あらゆる人が共に助け合っていると感じた	5.95
神戸2024を通じて、あらゆる人が寄り添っていると感じた	6.04
神戸2024を通じて、あらゆる人がつながりを認識していると感じた	5.97
神戸2024を通じて、あらゆる人がお互いを尊敬していると感じた	6.01

3群間
比較

D、E、I各項目をそれぞれ合成得点化。
→観戦者、選手・関係者、ボランティアの3群間で、比較。

◆ 効果量（ES）を確認すると、小程度（>.01）から中程度（>.06）であったものの（ES = .03-.08）、全因子「Diversity（ $F = 42.82, p < .001$ ）」、「Equity（ $F = 126.65, p < .001$ ）」、「Inclusion（ $F = 95.68, p < .001$ ）」において、有意な差が認められた。

項目	観戦者① ($n = 1,764$)		選手・関係者② ($n = 555$)		ボランティア③ ($n = 566$)		F-value	多重比較 (Bonferroni法・ 5%水準)	ES (η^2)
	M	SD	M	SD	M	SD			
Diversity（多様性）	6.37	0.72	6.03	1.24	6.10	0.83	42.82***	① > ②・③	0.03
Equity（公正性）	6.33	0.79	6.08	1.19	5.61	1.07	126.65***	① > ②・③, ② > ③	0.08
Inclusion（包摂性）	6.17	0.92	5.98	1.27	5.47	1.17	95.68***	① > ②・③, ② > ③	0.06

† : M = 平均値, SD = 標準偏差, ES = 効果量, * = $p < .05$, ** = $p < .01$, *** = $p < .001$

まとめ①

◆ DE&I項目において、観戦者が最もポジティブな傾向を示した理由は？

今回の調査では、パラスポーツの初観戦（直接観戦）が9割以上。

全ての因子で観戦者群が高い平均値を示したが、パラスポーツに初めて触れたことで、気づきや感動、インスピレーションが与えられ、DE&Iを強く享受しやすかったのでは？

◆ 選手・関係者は「多様性」を享受しにくい？

「多様性」の項目は、「個性」、「多種多様」、「価値観」、「違い」、「普通」がキーワード。
選手・関係者は普段の日常から感じており、大会に関係なく当たり前のことなのでは？

Diversity（多様性）

- 1 神戸2024を通じて、個性は多種多様であると感じた
- 2 神戸2024を通じて、人には色々な価値観があると感じた
- 3 神戸2024を通じて、違いは人それぞれであると感じた
- 4 神戸2024を通じて、人と違うことは普通であると感じた
- 5 神戸2024を通じて、違いは個性であると感じた

6. 研究成果

まとめ②

◆ ボランティアの「公正性」や「包摂性」の値が低かった理由は？

「公正性」のキーワードは「アクセス」、「包摂性」の定義は「・・・状態」。

ボランティアはイベント組織の内部で活動しており、実際の業務や体験が彼らにとってDE&Iに関する「アクセス」や「状態」を享受しづらい環境であった可能性。

→ ボランティアにおけるDE&Iの向上は、組織パフォーマンスの観点から重要である、との指摘（Legg et.al., 2021）

Equity（公正性）

- 6 神戸2024を通じて、あらゆるサービスは、すべての人が利用するためにあると感じた
- 7 神戸2024を通じて、個性を発揮することは、人に与えられた権利であると感じた
- 8 神戸2024を通じて、自立することは、人に与えられた権利であると感じた
- 9 神戸2024を通じて、中立な参加機会は、人に与えられた権利であると感じた
- 10 神戸2024を通じて、あらゆる情報は、すべての人が利用するためにあると感じた

Inclusion（包摂性）

- 11 神戸2024を通じて、あらゆる人が思いやっていると感じた
- 12 神戸2024を通じて、あらゆる人が共に助け合っていると感じた
- 13 神戸2024を通じて、あらゆる人が寄り添っていると感じた
- 14 神戸2024を通じて、あらゆる人がつながりを認識していると感じた
- 15 神戸2024を通じて、あらゆる人がお互いを尊敬していると感じた

今後の展望 ～共生社会の実現に向けて～

◆ スポーツを「つくる / はぐくむ」

神戸2024に携わった人材を大切に

◆ スポーツで「あつまり、ともに、つながる」

ステークホルダー間での情報共有を継続的に

◆ スポーツに「誰もがアクセスできる」

パラスポーツのプラットフォーム創出を

- Anderson, E. (2017). Sport and Social Change: A Critical Introduction. *Routledge*.
- Brittain, I., Biscaia, R., & Gérard, S. (2020). Ableism as a regulator of social practice and disabled peoples' self-determination to participate in sport and physical activity. *Leisure Studies*, 39(2), 209-224.
- Coalter, F. (2017). Sport and social inclusion: evidence-based policy and practice. *Social inclusion*, 5(2), 141-149.
- Fleming, J., & O'Connor, B. (2016). Inclusive Sport: Promoting Equality and Diversity in Sport. *Oxford University Press*.
- López, D., Ramirez, S., & Martinez, J. (2015). Inclusion and Sport: A Global Perspective. *Springer*.
- Sailes, G. A., & Drane, D. (2012). The Role of Diversity in Sports. *Human Kinetics*.
- Sherrill, C. (2004). Adapted Physical Activity, Recreation, and Sport: Crossdisciplinary and Lifespan. *McGraw-Hill*.
- Whelan, E., & Weiner, J. (2018). Equity in Sport: A New Paradigm for Equality. *Palgrave Macmillan*.